



2学期のスタートにあたり 「心のスイッチ」を入れよう

校長 永山 誉

今年の夏は、昨年とは違い、天候不順で大きな自然災害も発生しました。

まずは、令和8年熊本地震、令和8年8月千葉豪雨等、自然災害によりお亡くなりになられた方の御冥福をお祈りするとともに、被災されました方に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧と復興をお祈りするとともに、私たちも、何らかの形で復興のためお力になれればと考えています。大切なことは、被災された方々のために、自分たちでできることを考え実行していくことです。この夏休みの間、さいたま新都心駅の改札前で、被災された熊本の方々のために、募金活動に参加してくれた子どもたちがいます。子どもたち一人ひとりが自分事として考え、自主的に行動に移してくれればと考えています。

さて、自然災害が多かった夏ですが、静まり返っていた大宮南小学校の校舎にも子どもたちの元気な声が戻ってきました。いよいよ2学期のスタートです。2学期は、登校日数が81日と、1年の内でも最も登校日数の多い学期でもあります。2学期も子どもたちの学校生活が益々充実しますよう、保護者の皆様、地域の皆様には、これまでと変わらぬ学校教育への御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

ところで、子どもたちは、この夏どのような体験や経験をしたでしょうか。2学期のスタートに当たり、子どもたちには、まずは夏休みの生活から、通常の学校生活のリズムに戻す必要があります。大切なことは、気持ちの切り替えです。気持ちを切り替えるには、これからの活動をどうしていくか、目標を決めて前を向いて考えることが必要です。教育者で僧侶の東井義雄さんは、生前次のような詩を詠んでいます。

「心のスイッチ」
東井 義雄

人間の目は ふしぎな目
見ようという心がなかったら
見えても 見えない

人間の耳は ふしぎな耳
聞こうという心がなかったら
聞いていても 聞こえない

頭もそうだ
はじめからよい頭
わるい頭の
区別があるのではないようだ

「よし、やるぞ!」と
心のスイッチがはいると
頭も
すばらしいはたらきをしはじめる

心のスイッチが 人間を
つまらなくもし
すばらしくもしていく
電灯のスイッチが
家の中を明るくもし
暗くもするように

目標に向かって一歩ずつ自分のペースで歩み続けるために、子どもたちには、2学期の学校生活のスタートという「心のスイッチ」を入れる、そのような対応を学校として行っていきたいと考えています。また、「心のスイッチ」が入ったならば、次は自分で歩き出すことが肝要です。子どもたちが、「学校ってやっぱりいいな、学校って楽しい。」そんな気持ちで学校生活を送れるよう教職員一同全力で取り組んでまいります。2学期のスタートにあたり、保護者の皆様、地域の皆様には、本校教育への変わらぬ御理解と御支援を賜りますよう改めてお願い申し上げます。